



# All Rikkyo Tennis

## セントポールテニスクラブ会報

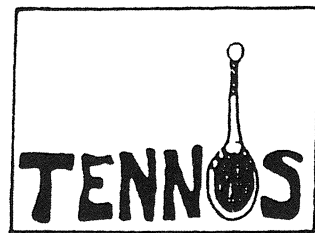
発行所  
セントポールテニスクラブ

発行人 白 寄 誠 爾  
篠 田 翔 平  
角 田 芽 優

# 男子3部2位無念の残留、女子2部3位

## 創部100周年まであと4年

平成24年度の関東大学テニスリーグの結果は、男子が2部昇格を目指し3部のリーグ戦を戦い、筑波大に4-5で惜敗したものの千葉商大、関東学院大、東農大、日体大には圧勝し、3部2位を確保、2部5位の上武大との入替戦にのぞみましたが、3-6で敗れ3部残留という結果になりました。2年連続2部への挑戦でしたが壁を破れませんでした。



### 「体育会とリーダーシップ教育」

部長 日向野 幹也

一年間の研究専念期間から戻って参りました(石川教授には留守中部長役としてお世話になりました)。海外にいることが多かったのですが、その間もテニス部の戦績は私なりに気にかけておりました。活性化資金をいただいた昇格したもののすぐ翌年降格してしまいう部などもあったのに対してテニス部はまずまずの成績で、次の資金をいただいでさらに飛躍をめざします、というふうに申請しやすい状況と言えるかもしれません。

体育会での経験はリーダーシップ教育の素材の宝庫であると思っております。しかしせっかく体育会で経験したことも振り返って言語化しておかないと「いろいろ頑張ったな」だけで終わって、卒業すると「結局、体力があることと上下関係に敏感忠実であることだけが取り柄」のような残念な結果になってしまうので、在学中にしっかりとリーダーシップ論の言葉に翻訳して定着させておく必要があります。昨年度、日本ラクビー・フットボール協会の中竹竜二さんを立教大学にお招きしてリーダーシップについて講演をお願いしたのはそうした試みの第一弾のつもりです。経営学部で2006年度から始まったリーダーシップ教育が、学内でようやく評価されるようになり2013年4月からは全学レベルに拡張されることになりました。近い将来にこれに体育会活動も含める形で皆様のお知恵をお借りしたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

### 「会長挨拶」

S 42年卒 倉光 哲

この度、伝統ある立教大学テニス部のOB会会長を受けさせていただきました。自分を育てていただいた立教テニス部に、微力ながらご恩返しが出来ればと考え、又、強き立大テニス部復活の為に力を注いで参りたいと考えております。よろしくお願いたします。

今回のリーグ戦のほとんどの試合を見るのが出来、感じたことは、現役の現在のそれぞれのショットは他の一部、二部校との差はほとんど無い、という事です。しかし試合に勝つための戦略、考え方に改革と勇気が必要と考えます。

### 「新理事長挨拶」

S 61年卒 山田 彰彦

本年六月の総会で藤原さんの後任として第十代理事長に選任されました。S 61年卒 山田彰彦です。私は小学校から立教で、中学からテニス部にお世話になりました。縁あって重責を担う機会を頂きましたので、倉光新会長をお支えしながら、自分なりにベストを尽くしてまいりたいと思っております。

女子においては、ストローク力があります。頼りすぎずから前後の揺さぶり、すなわちドロップショットを加え、日常練習で鍛えれば展開が大きく変わるはず。もちろん男女とも隙あらばネットに出るといふことはいつでもあります。又、部活面としては、ただテニスが強くなれば良いというだけではありません。テニスは個人競

技ですが、リーグ戦を戦うことにより、団体の中での協調性や規律が養われ、更に運動部としてのマナーなどを鍛えることもプレーと同様に重要なことと考えます。他校からマナーの面でもさすが立教と言われるように、全部員が卒業時に立教テニス部に四年間いて本当に良かったと思える部になりたいと考えます。

今後、付属校、系列校との連携強化、又全国強豪高校からのスカウティング活動などを含め、来る百周年に向け、現役、OB、OGが一丸となり目標達成の為に私も頑張る所存です。

現役に対し、OB、OGの皆様の御協力、御支援をよろしくお願いたします。

今年の団体戦では残念ながら男女とも掲げた目標は達成できませんでしたが、しかし現役諸君の日々の努力と、OB・OGの熱いサポートの力で、着実に前進していると確信しております。

OB・OGの皆様、以前と異なり、学生の環境は大きく変化しております。当部もあと4年で創部100周年を迎えます。ぜひともご関心を御寄せいただき、ご自身も関わってこの部の発展に応援頂きます様、よろしくお願致します。



去る六月十六日(土) セントポールテニスクラブ第十七回総会が、多数のOB・OGの方々のご出席を頂き池袋キャンパスの第一食堂にて開催されました。会計報告・予算・事業計画など慎重な審議が行なわれました。総会後は現役幹部を交え和やかな懇親会が開かれました。下記に総会の決定事項をご報告いたします。

第十七回総会 開かれる



平成24年度役員

Table listing the names and positions of the board members for the 24th fiscal year, including the President, Vice President, and various department heads.

平成24年度事業計画書

(自平成24年4月1日～至平成25年3月31日)

A detailed calendar-style schedule of activities for the 24th fiscal year, listing dates and descriptions of events such as general assemblies, tournaments, and training sessions.

平成23年度事業報告書

(自平成23年4月1日～至平成24年3月31日)

A detailed calendar-style schedule of activities for the 23rd fiscal year, listing dates and descriptions of events similar to the 24th year's plan.

100周年準備委員会

Table listing the members of the 100th anniversary preparation committee, including the chairperson and various members.

現役強化本部

Table listing the members of the current player strengthening department, including the department head and coaching staff.

〇現役強化委員会

Table listing the members of the current player strengthening committee, including the chairperson and members.

〇ARTプロジェクト委員会

Table listing the members of the ART project committee, including the chairperson and members.

平成24年度会計予算

(自平成24年4月1日～至平成25年3月31日)

Income statement table for the 24th fiscal year, showing various income items and their amounts.

Expense statement table for the 24th fiscal year, showing various expense items and their amounts.

●大学からの奨励金予算 (平成24年度)

Table showing the budget for university incentive funds for the 24th fiscal year, including categories like recruitment fees and rental court fees.

平成23年度決算報告書

(自平成23年4月1日～至平成24年3月31日)

Income statement table for the 23rd fiscal year, showing actual income items and amounts.

Expense statement table for the 23rd fiscal year, showing actual expense items and amounts.

Balance sheet table for the 23rd fiscal year, showing assets and liabilities.

●大学からの奨励金執行実績 (平成23年度)

Table showing the execution results of university incentive funds for the 23rd fiscal year, including recruitment fees and rental court fees.

# 平成24年度リーグ戦結果

## <男子3部>

	筑波大	立教大	日体大	東京農業大	関東学院大	千葉商大	勝敗	ポイント	最終順位
筑波大		5 - 4	6 - 3	7 - 2	7 - 2	9 - 0	5勝0敗	34	1
立教大	4 - 5		6 - 3	7 - 2	8 - 1	8 - 1	4勝1敗	33	2
日体大	3 - 6	3 - 6		6 - 3	7 - 2	7 - 2	3勝2敗	26	3
東京農業大	2 - 7	2 - 7	3 - 6		5 - 4	9 - 0	2勝3敗	21	4
関東学院大	2 - 7	1 - 8	2 - 7	4 - 5		7 - 2	1勝4敗	16	5
千葉商大	0 - 9	1 - 8	2 - 7	0 - 9	2 - 7		0勝5敗	5	6

## 入替戦

残留	駒沢大学	3-6
残留	上武大	3-6
残留	成蹊大	5-4
降格	東洋学園大	2-7

## <女子2部>

	筑波大	青山学院大	立教大	日体大	日大	東洋英和	勝敗	ポイント	最終順位
筑波大		4 - 3	6 - 1	6 - 1	6 - 1	5 - 2	5勝0敗	27	1
青山学院大	3 - 4		7 - 0	6 - 1	6 - 1	7 - 0	4勝1敗	29	2
立教大	1 - 6	0 - 7		4 - 3	5 - 2	6 - 1	3勝2敗	16	3
日体大	1 - 6	1 - 6	3 - 4		3 - 4	6 - 1	1勝4敗	14	4
日大	1 - 6	1 - 6	2 - 5	4 - 3		3 - 4	1勝4敗	11	5
東洋英和	2 - 5	0 - 7	1 - 6	1 - 6	4 - 3		1勝4敗	8	6

昇格	駒沢大	6-1
残留	亜細亜大	2-5
降格	東洋学園大	5-2
降格	東海大	5-2

### 「強化本部長挨拶」

S 53年卒 鷲田 典之

この度、中島先輩の後任として強化本部長に就任しました53年卒の鷲田典之です。

今年のリーグ戦は、男子が3部で準優勝して2年連続の入れ替え戦となりましたが、上武大学に3対6で敗れて昇格はなりませんでしたが、女子は2部で3位と健闘しましたが、残留となりませんでした。男子を2部へ、女子を1部へと昇格させるために尽力することが、今年の強化本部の役割と心得ています。

具体的には次のことをしていきたいと思えます。

- 1、山田監督が最大限に力を発揮できるようにサポートする。
- 2、強化委員会と連携して、有望選手の獲得に尽力する。
- 3、理事会、強化委員会と連携して奨励金の獲得に尽力する。
- 4、ART委員会、強化委員会が連携して関連高校の強化に尽力する。

### 「限界」

H 2年卒監督 山田 昇

今年のリーグ戦を終えて、珍しく、弱気になった。監督としては失格である。しかし、自分の頭の中に、「限界」と言う言葉が大きく支配した。自分の監督としての力量の限界、チームの限界、そして学生個々の限界、男子3部、女子2部、ここが限界なのか？

学生とのこの1年、期待裏切り、希望、挫折、その繰り返し、自主性の欠如、消極的なプレー、勝負どころで緊張し、普段のプレーが出来ない。やは

り「ここが限界」なのか？入替戦後、1週間、そして2週間の「限界」と感じた自分の心に向き合った。

どうして、そう思ったのか？目を閉じ、1年間を振り返った。学生達と話を聞いて、一番耳にした言葉は？

「自分なりに頑張っています。一番目にした光景は？」怒られると必死にやる姿だった。そこで、変な違和感を感じた。「自分なりに」「怒られると？」これが、「限界」を作っている。自分なりに怒られるとでなく、「自分なりに怒られるとでなく、自らリミッターを働かせ、急激に委縮し、負けていく。リミッターをぶち破った。限界を超えたプレーをしたのは、一人も1試合もない。

そう、自分も、「自分なりに」頑張っていたのかもしれない。そういう自分も、「怒られない」と「気が付かない事があったのかも」しれない。

チームの敗戦は、監督の責任である。監督が限界を感じ、自分なりに頑張っているように、まさに「ここが限界」なのだ。

私の監督像は、学生と共に挑戦し、学生と共に成長する事だ。本当に挑戦したか？本当に限界を超えてやり遂げたのか？いや、もし機会を与えて頂ければ、通う1年、挑戦したい。通常、プロ野球でも、Jリーグでも、2年連続して敗戦した監督の3年目は無い。学生と共に成長するために、リミッターを切るしかない。

学生諸君、「リミッター」を切ってくれ。その心の中にある。そうその機械だ。ある場所はわかっているだろうか？そうそれを今すぐ外してくれ！

男子前主将 松沼 豊人



前年度主将を務めさせて頂きました、観光学部文化交流学科四年の松沼豊人です。

この一年主将として入学当初からの目標であった「立教を強くする」という目標の為に向かって走り続けてきました。多くの犠牲を払って、取り組んだ一年でしたが昇格には間に合いませんでした。ですが主将を務めたことで得たものは大きく人間として大きく成長できたように思います。

この四年間は振り返ると辛いことが多かったように思いますが、特に一年生の時には環境面で負い目を感じたりして悩んだ時期もありましたが、その時に支えになったのは、監督をはじめとするOB・OGの皆様でした。頑張れば頑張るほど、応援してくださった方々が沢山入ったおかげで私は立教に入った良かったと思うことができました。

ですがやはりまだまだこの四年間はやりきれませんでしたので、社会人となった後も実業団でのプレーを目指し、立教で果たせなかった夢を達成する為に努力していきたく思います。また今後OBとして、後輩たちをサポートする形で立教に貢献したいと考えております。

OB・OGの皆様この四年間本当にありがとうございました。

男子前主務 木田 耕平



前年度主務を務めさせて頂きました、経済学部経済学科四年の木田耕平です。大学生活の4年間ほぼ全てをテニス部で過ごし、嬉しかったこと、辛かったこと、多くのことを経験することが出来ました。特に主務として過ごした1年間は私を大きく成長させてくれたと感じています。主務としてチームを運営する立場となり、主務の仕事とテニスの両立が上手く出来ず、悩み苦しんだ時期もありました。しかし、それ以上に監督、コーチ、OB・OGの皆様が本気で私達のことを考え、動き、支えて下さっているというのを、主務という立場から改めて実感したことで、皆様の愛情を糧に私は努力することが出来ました。

OB・OGの皆様、この四年間の皆様、そして同期、先輩、後輩、多くの人々に支えられ、学び多き素晴らしい4年間を過ごせたと思います。最後になりましたが、4年間支えて下さったOB・OGの皆様、本当にありがとうございました。皆様から頂いた多くの御声援、サポートを、今度はOBとして私が後輩達に返したいと思います。

女子前主将 谷川 麻里絵



前年度主将を務めさせて頂きました、社会学部メディア社会学科四年、谷川麻里絵です。

私は去年の交代の際に、厳しい戦いではあるけれど、自分達の代で必ず昇格をする、最後の一年を、決して二部での経験となる年にはしたくない、と考えていました。そのために主将としてたくさん考え、たくさん悩みながらも一年間やってきました。結果としては二部三位という結果でしたが、チームメイト全員が好きて頑張った結果だったので、結果やこの四年間に悔いはありません。ここまでやってこれたことは、いつも笑顔でいてくれたチームメイト、どんな時でも頑張れと応援し、味方で居て下さったOB・OGの皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

テニス部に入ったから楽しい大学生活を送ることが出来た。立教に入ったから最高のチームに出会えた。今後は、今まで自分がお世話になった分、チームに少しでも恩返しが出来ればと思います。そして果たせなかつた一部昇格や、その後の立教の飛躍に、少しでもお手伝い出来ればと思います。本当にありがとうございました。皆様から頂いた御声援、サポートを、今度はOBとして私が後輩達に返し

女子前主務 細田 有里



前年度主務を務めさせて頂きました、コミュニケーション学部スポーツウエルネス学科四年の細田有里です。

レギュラーとしてリーグ戦に出場するという目標は達成できませんでしたが、主務という立場で様々な経験を積み、充実した四年間を過ごすことができました。辛いことも多々ありましたが、常に温かいご声援を下さるOB・OGの皆様や引退後も見守って下さる先輩方、同期、後輩たちに支えていただき、四年間、立教大学体育会テニス部の一員として過ごすことができました。

第二部でのリーグ戦は本間に違えれば、下入れ替えませんか。残念ながら入れ替え戦にいけない、一部昇格という目標は達成できませんでした。しかし、第二部第三位という結果は、今年度に期待が持てる大きな成果であったと思えます。悔しい思いをした後輩たちが、一部昇格を成し遂げてくれると思います。

幹部になり、OB・OGの皆様と関わる機会が増え、以前よりも皆様に近づくことができて本当に良かったです。テニスに良かったのではなく、人として必要なマナーや精神、様々なことを教えて下さる場所は他にないと思えます。これからは皆様のようにならないうちに一杯サポートして参ります。

今年度のリーグ戦を終えて、珍しく、弱気になった。監督としては失格である。しかし、自分の頭の中に、「限界」と言う言葉が大きく支配した。自分の監督としての力量の限界、チームの限界、そして学生個々の限界、男子3部、女子2部、ここが限界なのか？

学生とのこの1年、期待裏切り、希望、挫折、その繰り返し、自主性の欠如、消極的なプレー、勝負どころで緊張し、普段のプレーが出来ない。やは

### 新幹部紹介

男子主将 大竹 徹



本年度主将を務めさせていただきますことになり、経済学部経済政策学科三年の大竹徹です。九月に行われたリリーグ戦では三部残留という大変悔しい結果に終わりましたが、少しづつではありませんが、二部との実力差が埋まってきています。ことを実感いたしました。しかし昨年と同じ意識、練習では来年のリーグ戦で昇格することは到底できません。来年のリーグ戦で昇格するために、部員全員が本気で昇格をめざした高い意識を持ち、二部校に勝つための練習を一年間積み重ねていかねければなりません。そのため主将としてしっかりとリーダーシップを取り、部員全員を引っ張っていき、私の役割だと考えています。また、日頃から私達現役を指導していただいている監督、コーチの方々、多大なご支援・ご協力をいただいているOB・OGの皆様には本当に感謝しております。監督、コーチの方々、OB・OGの皆様には結果を出すことで恩返しをしたいと考えております。

来年のリーグ戦で昇格するための準備を毎日しっかりと行い、私自身のため、チームのため、また普段から支えていただいている監督、コーチの方々、OB・OGの皆様のためにも、精一杯精進して参りますので、どうぞ今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

女子主将 寺田 美邑



本年度主将を務めます、コミュニケーション福祉学部コミュニケーション政策学科二年、寺田美邑です。

まず初めに、昨年度も多くの指導、ご声援、ありがとうございます。リーグ戦では改めて、たくさんのOB・OGの方々に支えられていること、立教テニス部の力強さを感じることができ、私自身その一員になれたことは幸福なことであり、誇りに思っております。

私達三年は引退まで残すところあと一年となりました。入学してから今まで様々な経験をさせていただき、勝つために必要なこともたくさん学びました。あとは私達が結果を残すのみです。今までの経験、学んだことを全て出し切り、最後に勝利、一部昇格という結果に繋げたいと思います。一部昇格は昨年度と同じことをやっていては達成できません。まだまだ手さぐり状態ですが、チームのために何が出来るのか、何が最善の方法なのかというのを日々考えていきたいと思っております。

また、私は感謝することは自分の心を清らかにすると感じるようになり、毎日感謝の気持ちを持ち、何を忘れることなく、何事も全力で努めて参ります。

最後にになりましたが、一年間、精一杯務めさせていただきますので、今後ともご支援、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

男子主務 篠田 翔平



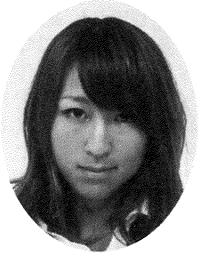
本年度主務を務めさせていただきますことになり、経済学部経済学科三年の篠田翔平です。

昨年度は副務を務めさせていただき、主務の仕事というものを一番近くで見学させていただいたため、私は主務になる心構えは十分にできているつもりです。しかしながら、交代代が近づくにつれて、本心に自分に主務という大役が務まるか不安な気持ちにもなりました。しかし、高校時代にも私は立教新座高校の主務を務めさせていただいた経験があるので、その経験を活かして主務の仕事に全うしていきたいと思っております。

私は三年間、リーグ戦では選手として出場した経験はなくサポートとしてチームに貢献してきました。三年間サポートとして全力でチームに貢献しようという気持ちで、やはり選手としてチームに貢献できたいという気持ちを感じました。主務になったからといってテニス面を妥協するのではなく、来年のリーグ戦では、自分が選手として出場しチームを昇格に導くように努力して、選手としても主務としてチームに頼られる存在になれるように頑張ります。

最後にになりましたが、OB・OGの皆様には常々ご支援・ご声援をいただき、大変感謝しております。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

女子主務 角田 芽優



本年度主務を務めさせていただきますことになり、経営学部経営学科三年の角田芽優です。

ついこの間テニス部に入学したばかりのような感覚だったのですが、気が付けば最高学年として、チームをまとめる立場になりました。テニス部で過ごす四年間はあっという間だと感じております。最後の一年となると、チームをまとめる責任があるからというところもありますが、どの代も一生懸命頑張ると思います。ですが、私はそれではないと感じております。リーグ戦を経験出来るのはたったの四回しかありません。となると、一年生の時から一回一回のリーグ戦大切にすることが必要になります。部員全員が本気で本気でリーグ戦に向けて毎日私生活から練習全うにおいて全力で取り組む必要があると感じております。私はこの思いを後輩に伝え、全員の気持ちのベクトルを揃え本年度のリーグ戦に挑みたいと考えております。部員全員が常に自主性をもち昇格に向けて頑張っている環境を最高学年である私達が作り、日々努力していきたいと思っております。

一部昇格という目標は厚い壁ですが、私は超えられない壁は決してないと信じています。OB・OG皆様のご期待に添えますよう頑張らせて参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻、またご声援の程、宜しくお願い致します。

男子副将 川上 悟史



この度、副将を務めさせていただきます。副将を務めさせていただきますことになり、社会学部社会学科三年の川上悟史です。宜しくお願い致します。

時の流れは早いもので、新入部員としてテニス部に入学してから三年の月日が経ち、私も最上学年となりました。その月日の中で私はこのテニス部で多くの偉大な先輩方に出会い、様々な経験をさせて頂き、成長して来られたと感じています。その中でやはり最も鮮明に思い出されることは一年生のときに果たした昇格です。しかし、この二年間のリーグ戦では入替戦で敗れ悔しい思いをしたと同時に、自分達の足りないを実感致しました。この反省を生かし、まず私達の学年が強固な一枚岩となつてチームを引っ張り、まとめ上げ最高のチームを作りたいたいと考えております。

今まで私達はこの部で多くのOB・OGの方々から様々なものを頂き、また、今度私達が昇格したという形で後輩達に残していく番です。そしてそれが今までお世話になってきた立教大学体育会テニス部という大きなファミリーに対する恩返しにもなると考えています。自分の為、またチームの為に強い信念をもち昇格に向けて邁進して参ります。今後とも変わらぬ御指導、御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

男子副将 高野 順帆



本年度副将を務めさせていただきますことになりました、コミュニケーション福祉学部スポーツウエルネス学科三年高野順帆です。

一年間副将を務め、単複とも出場させて頂いた今年のリーグ戦は、一つの試合の重さより、自分の責任の重さをより強く感じ、去年とは全く違うものでした。そんな中で勝負できたことは、私にとつてもとても良い経験になったと思います。OB・OGの皆様や監督、コーチの方々には幾度となく支えて頂き、大変感謝しております。しかし、大事なところで選手として試合に勝つことができなかった、副将としてチームの勝利にも貢献することができませんでした。二部昇格のために、技術面、精神面で私に足りない部分は何と多いと感じています。今年のリーグ戦で浮き彫りになった多くの課題を克服し、来年のリーグ戦では三度目になる二部との入れ替え戦で勝利できるように、日々精進していきたいと思っております。また、副将を務めるにあたり今年のリーグ戦で得た経験をもとに、部員間のコミュニケーションを積極的に計り、チームを引っ張っていきます。一人一人が二部昇格のためにやらなければならぬことをより明確にし、チーム一丸となつて二部昇格を目指しますので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

男子副将 中澤 祐貴



本年度、副将を務めさせていただきますことになり、社会学部現代文学科三年の中澤祐貴です。九月に行われましたリリーグ戦では昨年引き続き三部残留という結果に終わり、チームとしての差だけでなく、技術力の差を大きく感じました。これはチーム全体が一部を見据えた意識をもつことができていなかった結果であると思います。私は部員が高いモチベーションの中で日々の練習に取り組めるように自らプレーで引っ張っていき、サポートしていくことが役目であると考えています。また、主将を支えるだけでなく、自分自身にできない事を常に考え行動して参ります。それは、この三年間で培ってきたサポーターと選手の経験を活かし、学んできたことを後輩達に伝えていくことだと思っております。そして、目標や課題を含めた全てのことを細かく設定していき、チーム全体のレベルアップを図っていきます。必ず、二部で戦い抜くことのできるチームを作り上げ、三部優勝・二部昇格致します。

この三年間、OB・OGやコーチ陣の方々の支えが本当に私達の力になりました。最後の年になりましたが、今までのお世話になった方々へ恩返しできるように、後輩達へ昇格の喜びを伝えられるように精一杯努力して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

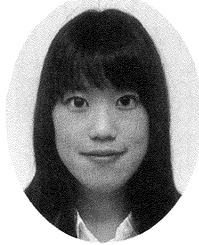
女子副将 吉田 恵美



本年度、副将を務めさせていただきますことになりました、法学部法学科三年、吉田恵美です。

私は、来年のリーグ戦を終えるまで、チームに対する甘さを全て消すことを決意致します。私がこれまで三度のリーグを経験してきて感じたことは、「ここまでするものはない」と最後に思えるかどうかで勝つ負けはもうそこです。勝てるかどうかは絶対に勝てない、それがリーグ戦の厳しさであると感じています。大切なのは、リーグ戦までの一年間に何をしようか、それをどのような心でやるかであると思っております。私は副将として、またチームを引っ張っていき、存在として、勝つために何が必要であるのか、何が足りないのかを常に考え、それをチームとして実行していく責任があります。「自分に厳しく、仲間にも厳しく」をモットーに、自分のためではなく、チームのためにこれから二年間頑張っていくたいと思っております。そして、来年のリーグ戦で必ず、自信と誇りで満ち溢れた私たちの姿をみなさんにお見せしたいと思っております。来年の昇格のために全てを懸けて日々過ごして参りますので、今後ともOB・OGの皆様、ご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。

女子副将  
金子 真奈



今年度副将を務めております。コミュニケーション福祉学部スポーツウエルネス学科二年の金子真奈です。宜しくお願い致します。

私は前年度のリーグ戦を通して、一部に行くためにチームに必要なことは「一人一人が自分の役割を果たす」ことであると感じました。自分自身で役割を認識し、積極的に行動、そしてそれを果たすことで、「一部昇格」というチームの結果に繋がるのです。

新入生紹介

1年 鈴木 理大



埼玉県私立立教新座高等学校出身、経営学部経営学科一年の鈴木理大です。私は立教新座中学校に入学し父親の影響もありテニス部に入部しました。戦績が伸びず父親にテニスをやめろと何度か言われ、私は悔しかったのでインターハイに出場し父親に恩を返すことを決め、高校でもテニス部に入学し練習に励みました。インターハイ出場は叶いませんでしたが、高校三年生の時に全日本ジュニアに出場することができました。私は更に強くなり人間としての成長も求めるべく引退した八月一日、立教大学体育会テニス部に入部することを決意致しました。

今年度は、前年度に成し遂げることができなかった「一部昇格」という目標に向かって日々精進していきます。私たち現役部員とともに、同じ目標に向かって支援してくださっているOB・OGの皆様、そして一緒に戦う仲間への感謝の気持ちを大切に取組んで参ります。今後とも、ご声援の程宜しくお願いいたします。

1年 桃井 洋太郎



埼玉県私立立教新座高等学校出身、現代心理学部映像身体学科一年の桃井洋太郎です。私は小学生のときに家族と始めたのがきっかけで中学、高校と約八年間テニスを続けてきました。当初は高校を卒業すると共にテニスに区切りをつけようと考えていましたが、やめるには心残りが多く、自分の納得の行くまでテニスを続けたいと思ひ、体育会テニス部に入部致しました。

入部して早くも七ヶ月が経ちました。私にとって全ての経験が新鮮で学習の連続でした。入部して間もない頃、厳しい練習についていくことが出来ず、部活を続けていくことに不安を感じていました。しかし、過酷な夏合宿を乗り越えたことで体力に自信が着き、精神的にも強く変わることができたのです。この成長は決して自分一人で行ったのではなく、テニス部の仲間とお互いに励まし合えたからこそ掴めたのだと感じています。

1年 吉澤 瑞樹



東京都私立帝京大学高等学校出身、コミュニケーション福祉学部スポーツウエルネス学科一年の吉澤瑞樹です。私は中学校にあがった時に中高一貫校であったために六年間何かに全力で打ち込みたいと思っていたところ、友人に誘われたのがきっかけでテニスを始めました。中学・高校で約六年間部活をつづけました。ですが、その時は現状に満足出来ずにより過酷な環境で自身を高めたいと思ひ、体育会テニス部に入部しようという思いに至りました。

入部したばかりの頃は、それなりの覚悟はしていたものの、こんなにも過酷なものなのかと思う日々の連続でした。ですが、私の求めていた環境がそこにはありました。夏合宿等厳しくつらい経験もありました、ですが、素晴らしい諸先輩や同期を支えられて、この七ヶ月を乗り切ることが出来ました。

1年 マネージャー 大塚 嘉彦



男子部のサポートをさせて頂いておられます。法学部法学科一年の大塚嘉彦と申します。浪人を経て入学したため、大学への期待は人一倍です。大学生活で自分がやりたいこととは全てやろうという意気込みで「体育会で部活をやりたい、かかてからの夢である弁護士を目指そう」と決めました。しかし、次第に部活動の占めるウエイトが大きくなり、学業への不安を感じました。部活と夢の両方を天秤にかけ、夢を追うことを選びました。そして、一度は部を辞める意思を伝えました。「テニスができるならなら部にいる意味がない」と思っていた私に「山田監督と松沼主将は、立教大学テニス部は他の部活とは違う。みんなが全力で取り組んでいる。全力で何かに取り組む人をテニス部は必要としている。」と同じことを仰いました。在学中は勉強中心とならざるを得ませんが、もっと将来的に部活動に貢献していきたいと考えております。

今年私の目標は、一つでも多く勝ちを積み重ね、来年のリーグ戦に出場し、昇格に貢献する事です。またこうして、素晴らしい環境で日々の練習を集中しておこなうことが出来るのもOBの方々の多大なる御支援のおかげです。この事を胸に、OBの方々への感謝を日々忘れず、少しでもよい報告ができるよう練習に励んでいく所存であります。

1年 マネージャー 渡邊 知可



社会学部社会学科一年の渡邊知可です。テニス部では男子チームのマネージャーを務めさせていだいておられます。私は今年の七月から途中入部致しました。中学、高校と水泳部に所属していたのですが、あまり体育会の雰囲気はありませんでした。最近ようやく体育会の雰囲気になれてきたところです。私が入部するきっかけとなったのは、同じくテニス部男子チームのマネージャーを務めさせていだいておられる姉の存在です。入部前からテニス部のことは近に感じていました。そして私も、一つの目標に一丸となって向かっていく選手をサポートしたいと思ひ入部することに致しました。入部してからも、夏合宿とリーグ戦を経験致しました。テニスのことや部員のこと、マネージャーの仕事など、様々なことを学びました。皆さんのご指導、ご声援がどれほど部員の力になっているかを痛感致しました。私は、テニスの経験が無いに等しく、競技に關しては分からない部分も多々ありますが、選手をどうサポートしていくべきかを考え、積極的に部活に関わっていきたくと思ひます。精一杯頑張つて参りますので、よろしくお願い致します。

男子部マネージャーを務めさせていだいておられます。法学部政治学一年松島優です。私は中学高校時代、吹奏楽部に所属しておりました。大学入学を期に新たな事に挑戦しようと考えていたときにテニス部の先輩方から勧誘を受け入部を決意しました。今まで自分自身が主体となつて動く事が多かった為、入部当初はマネージャーというサポートの役割を自分が果たせるのか不安な気持ちもありました。けれど、選手の手伝ってくれることも、自らの仕事に励む原動力となりました。また、サポートにまわる事によって自分が今まで多くの人に支えられていた事を実感し、改めて感謝の気持ちを伝える大切さに気づく事が出来ました。

1年 マネージャー 松島 優



男子部マネージャーを務めさせていだいておられます。法学部政治学一年松島優です。私は中学高校時代、吹奏楽部に所属しておりました。大学入学を期に新たな事に挑戦しようと考えていたときにテニス部の先輩方から勧誘を受け入部を決意しました。今まで自分自身が主体となつて動く事が多かった為、入部当初はマネージャーというサポートの役割を自分が果たせるのか不安な気持ちもありました。けれど、選手の手伝ってくれることも、自らの仕事に励む原動力となりました。また、サポートにまわる事によって自分が今まで多くの人に支えられていた事を実感し、改めて感謝の気持ちを伝える大切さに気づく事が出来ました。

正直、不安は沢山あります。厳しい練習に四年間耐え、常に自分を追い込み続けることは、自らの挑戦でもあります。しかし、後悔は全くありません。この仲間と送る四年間は私にとって、生涯かけがえのないものになるに違いないと確信しているからです。

1年 大坂 美孔



秋田県立秋田高等学校出身、コミュニケーション福祉学部スポーツウエルネス学科一年の大坂美孔です。テニスを始めたのは小学生の時ですが、私は今まで、誰かに指導をして貰ったという経験はありません。フォームは全て見よう見まねでしたし、高校で初めて入部したテニス部にも指導者はおらず、部員は皆初心者ばかり、という環境でした。そんな私が、この立教大学体育会テニス部への入部を決意したのは、初めて練習を見学させて頂いた際に、深い感銘を受けたからです。質の高い練習、実力のある先輩方、そして何より、素晴らしいコーチの方々の指導という、自分が今まで憧れていた環境が立教大学にはありました。この場所でテニスがかしたい、強くなりたい、と感じたことが、入部を決心した理由です。

正直、不安は沢山あります。厳しい練習に四年間耐え、常に自分を追い込み続けることは、自らの挑戦でもあります。しかし、後悔は全くありません。この仲間と送る四年間は私にとって、生涯かけがえのないものになるに違いないと確信しているからです。



1年 加藤 優里

神奈川県私立捜真女学校高等学部出身、コミュニケーション福祉学部スポーツウエルネス学科一年、加藤優里です。

私は、中学校の部活でテニス部に入部したことがきっかけでテニスを始めました。中学ではあまり真剣に取り組んでいなかったと言えませんが、中三の頃から学校にコーチが指導をしてくれて下さるようになり、テニスに夢中になるきっかけを沢山与えてくださった影響で、真剣にテニスが上手になりたいと思うようになり、高校生活になっても良い成績が出せたわけではありませんが、それが、それでもテニスを通して沢山素晴らしいことが学べたことと、完全燃焼できずに悔しさの残る引退だったこと、テニス部の見学をさせていただいた時に本当に先輩方のプレーに惹きつけられ、大学でこそ絶対強くなりたいたいと思い、立教大学体育会テニス部へ入部しました。憧れの先輩方、素晴らしいコーチや監督、温かいOB・OGの方々の支援の中で練習することができ、毎日が本当に勉強になりますし、充実した部活生活を送れる事に本当に感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れずに、自分に負けない強い気持ちを持って、チームの一員として昇格を目指して、全力で頑張ります。今後とも、ご支援、ご指導宜しくお願致します。



1年 神田 聡美

東京都私立香蘭女学校出身、文学部教育学科一年神田聡美です。

私は中学受験で香蘭女学院に入学し、そこでテニス部を始めました。中学、高校と5年間テニス部に所属していましたが、あまり部活動に力を入れていない学校だったので、楽しただけで、何か物足りなさを感じていました。そんな中、立教大学体育会テニス部を知り、リーグ戦を初めて見て、テニス部に入部したいという思いが強くなり、中高一時代は本気でテニスに打ち込めずに終わってしまったので、大学でやってみようと思い入部を決めました。



1年 清水 理咲

東京都私立富士見丘高等学校出身、法学部政治学科一年の清水理咲です。

私は、小学五年時に友人に誘われ、故郷である静岡県でテニスを始めました。そして中学三年時にさらに上を目指したいという強い気持ちから親元を離れ単身上京し、富士見丘高校に入学しました。想像以上の厳しい練習や激しいレギュラー争いに苦しんだ時期もありました。しかし、徐々に日々の努力が結果として表れ、全国選抜ではレギュラーとして出場し、第三位を収めることができました。

# OB・OGの声

## 「テニス雑感」

S 42年卒 濱野 公哉

そのコートには笑顔と観衆の拍手とお互いの健闘を称える握手が待っていた。今日の私のパートナーは2才の常に姿勢が良い赫灼たる紳士のT氏である。フォアストサーブは80%以上入れ、半径3m以内のボールはほとんどミスなく打ち返す。とても御高令とは思えない。テニスの試合中に常に考えさせてくれた。「尊敬」「憧れ」「羨望」「テニスってなんて素晴らしいスポーツだ!!」

## 「テニスの勝ち負け」

S 58年卒 庄野 俊夫

しばらく地方におりましたが、一月に東京に戻り、十数年ぶりにリーグ戦の応援に行きました。久しぶりの学生テニスをみて学生時代を思い出して懐かしい気持ちになりました。学生諸君のプレーは自分が現役のときよりも格段にレベルが上がっていると思えました。フォアもバックもストロークでエースを取れるショットがあり、ネットプレーもしっかりと決められる技術があると思えました。「好きでやったテニスだもの最後までやりとうぞう」。でも、でも、である。今までの不摂生が体を歪める。あと何年出来るか。今日のパートナーT氏が良い手本だ。

## 「感謝と自信」

H 11年卒 白井 暁子

現役の皆さん、日々の部活の取り組み、ご活躍本にお疲れさまです。OB・OGの皆さん、あらゆる面からのサポートに感謝しますと共に、伝統ある立教テニス部の力強さや温かさを改めて感じてやみません。

## 「リスクとリーダーシップ」

H 19年卒 阿部 研人

卒業して早5年経ちますが、毎年リーグ戦を見れば現役時代を回顧し時々苦しくなります。現役時代の監督(H19年卒武市さん)の言葉を思い出します。



# ARTプロジェクト委員会

## 「活動報告と今後の課題」

H4年卒 増田 哲也

2010年11月23日に発足したARTプロジェクト委員会はSPTC現役強化本部の下部組織として3年目を迎えました。これまで『十字の御旗に魂を!』を合言葉に、現役大学生とARTプロジェクト委員会のOBOGが一体となり、毎月1回の濃密な打合せを重ね発足以後数々のプロジェクトを立ち上げ運営してまいりました。

また毎年5月に行っている「小野田倫久プロによるジュニアクリニック」は、11/23に実施しております。「学院合同練習会」とともに今やARTプロジェクトの中で一大イベントとなっており、毎年募集定員を大幅に上回る人気で多くの外部のジュニアとその親御さんが新座コートに足を運んでくださっています。小野田プロコーチをはじめ、堀プロコーチ、工藤トレーナー、栄養学が専門の高野氏、メンタルトレーナーの第一人者である〇〇先生、チームウェアであるエレッセ(ゴールドウイン社)の縄田様等、豪華なサポートスタッフが参加のジュニアをサポートくださっており、対外的にもALL RIKKYO TENNISの知名度を上げてい

さんへの配慮等ダイバーシティを学ばせる上でも貴重な体験になっていると感じています。これまでに立教学院テニス部でテニスがしたいといった声も数多くいただいております。その他といたしましては、HPのリニューアルやgoogleカレンダーを活用した各校の練習スケジュールの共有化、エレッセオリジナルチームウェアの横展開等についても実施してまいりました。

上記のとおり、お陰さまでこの2年間でベースを作ってまいりましたが、今後の課題は、ARTプロジェクト委員会メンバーの増強と現役学生の関与度を高めることにあります。前者につきましては、現在平成2-3年卒のOBが中心となっており、企画運営をしておりますが非常に苦勞しております。特に平成卒の若手OBOGの皆様には積極的にこのプロジェクトに参加していただきたいという切なる願いです。また後者につきましては、現在、現役学生の中にARTプロジェクト担当を決めており、彼らを中心に現役学生の主体性が少しずつ芽生えてきたことは誠に嬉しい限りです。しかしながら今後更なる発展をしていくためには、一人でも多くのOBOGの当ARTプロジェクトへのご理解とご協力が欠かせません。末筆となりましたが、各校顧問の先生をはじめ、OBOGの皆様には引き続きのご支援の程宜しくお願い申し上げます。

「活動報告と今後の課題」  
H4年卒 増田 哲也  
2010年11月23日に発足したARTプロジェクト委員会はSPTC現役強化本部の下部組織として3年目を迎えました。これまで『十字の御旗に魂を!』を合言葉に、現役大学生とARTプロジェクト委員会のOBOGが一体となり、毎月1回の濃密な打合せを重ね発足以後数々のプロジェクトを立ち上げ運営してまいりました。

また毎年5月に行っている「小野田倫久プロによるジュニアクリニック」は、11/23に実施しております。「学院合同練習会」とともに今やARTプロジェクトの中で一大イベントとなっており、毎年募集定員を大幅に上回る人気で多くの外部のジュニアとその親御さんが新座コートに足を運んでくださっています。小野田プロコーチをはじめ、堀プロコーチ、工藤トレーナー、栄養学が専門の高野氏、メンタルトレーナーの第一人者である〇〇先生、チームウェアであるエレッセ(ゴールドウイン社)の縄田様等、豪華なサポートスタッフが参加のジュニアをサポートくださっており、対外的にもALL RIKKYO TENNISの知名度を上げてい

さんへの配慮等ダイバーシティを学ばせる上でも貴重な体験になっていると感じています。これまでに立教学院テニス部でテニスがしたいといった声も数多くいただいております。その他といたしましては、HPのリニューアルやgoogleカレンダーを活用した各校の練習スケジュールの共有化、エレッセオリジナルチームウェアの横展開等についても実施してまいりました。

上記のとおり、お陰さまでこの2年間でベースを作ってまいりましたが、今後の課題は、ARTプロジェクト委員会メンバーの増強と現役学生の関与度を高めることにあります。前者につきましては、現在平成2-3年卒のOBが中心となっており、企画運営をしておりますが非常に苦勞しております。特に平成卒の若手OBOGの皆様には積極的にこのプロジェクトに参加していただきたいという切なる願いです。また後者につきましては、現在、現役学生の中にARTプロジェクト担当を決めており、彼らを中心に現役学生の主体性が少しずつ芽生えてきたことは誠に嬉しい限りです。しかしながら今後更なる発展をしていくためには、一人でも多くのOBOGの当ARTプロジェクトへのご理解とご協力が欠かせません。末筆となりましたが、各校顧問の先生をはじめ、OBOGの皆様には引き続きのご支援の程宜しくお願い申し上げます。

ドバイスを行いました。講義では、小野田プロによる「最近のテニス事情」という名目で講演をして頂き、実際にジュニア達からも質問を受け付けて行われ、また栄養学の講義やメンタルトレーニングの講義、実践形式でのトレーニングについての講義を行いました。

このような機会が現役部員は我が立教大学体育会テニス部の目的である、社会貢献活動という有意義な体験をすることができ、実際にジュニアの子達と触れ合うことで、将来の立教大学体育会テニス部を志望してくれるような選手を育成できる非常に重要な経験を積むことができましたと感じております。来年以降もこのような活動を継続していきたいと思っておりますので、OBOGの皆様、今後もお指導・ご鞭撻の程宜しくお願致します。

今年も、「団体関東」を部の目標とし、都4位以上入賞のために活動をして参りました。昨秋の16校戦では、初戦の松が谷高に惨敗し、2年連続の都ベスト16。同じカードで連敗する悔しさを味わいました。

今年度の立教新座中学校テニス部は厳しいスタートとなりました。5月の地区大会では、ダブルスでは2組が県大会に出場できたものの、シングルスでは県大会出場できなかったという厳しい結果でした。

## ジュニアクリニック

平成二十四年六月三十日(土)、ALL RIKKYO TENNISプロジェクトの一環として、小野田倫久プロによる第二回ジュニアテニスクリニックが開催されました。このジュニアテニスクリニックでは、小学生から中学生までを対象とし、実際には男女三十一名のジュニアが参加しました。具体的には、三十一名のジュニアを二グループに分け、練習と講義を午前と午後に分けて行われました。練習組は小野田プロによる基本的なフットワーク講座、基本的なサーブの講座からラリー練習や二対一の練習、大学生も含めたポイント練習など実践的な練習も行われました。ジュニア達には小野田プロからのアドバイスだけでなく、現役体育会部員からも積極的に声をかけ、ア



## 中学・高校通信

### 立教池袋高校

「変革の中で」 顧問 吉田 清典

今年も、「団体関東」を部の目標とし、都4位以上入賞のために活動をして参りました。昨秋の16校戦では、初戦の松が谷高に惨敗し、2年連続の都ベスト16。同じカードで連敗する悔しさを味わいました。

### 立教新座中学

「2012年活動報告」 顧問 久保 裕一郎

今年度の立教新座中学校テニス部は厳しいスタートとなりました。5月の地区大会では、ダブルスでは2組が県大会に出場できたものの、シングルスでは県大会出場できなかったという厳しい結果でした。

### 立教新座高校

「ご報告」 顧問 平山 晋

立教新座高校テニス部は「団体戦での全国出場」を最大の目標に日夜練習に励んでいる。本年度のチーム(現高三)は、主将の田中を中心に練習に励んだが、残念ながら関東予選の個人戦では実力を発揮することができなかった。

# 平成24年度年会費ありがとうございました。

平成24年11月12日現在

卒年 OB 氏名 (敬称略)

卒年 OB 氏名 (敬称略)

卒年 OG 氏名 (敬称略)

39年以前のOBの方々は、会費は免除になっておりますが、  
たくさんの方々より、寄付金として預かりいたしました。

- 40 町田昭雄 平井克忠 末藤朋昭 藤原正勝
- 41 川口隆史 木口邦彦 大田洋一
- 42 倉光 哲 濱野公哉 出口誠之 豊田資朗
- 43 原田正明
- 43 沢松忠幸 小宮山亮次 佐藤俊彦 三浦充行
- 44 占野靖宗 須田健治 志田充顕 富田次郎
- 45 宇野 治 朝倉伸行
- 46 笠原賢次郎 日高啓吾 安田清志
- 47 加藤雄一 安達幸男 若井新司 中矢真人
- 48 内原康雄 清水春海
- 49 浅見 豊 今井広幸 武藤憲二 鈴木徹雄
- 50 梅田憲司 井畑 清 中島幸彦 大里有二
- 51 立野公一 佐藤信夫
- 52 鈴木一広
- 52 石上富一
- 53 山下哲夫 鷺田典之 井筒浩平
- 54 角田俊平 鈴木康正 秋元英晴 渡辺 薫
- 54 岩立文雄 原田 豊 毛利毅裕
- 55 松村隆司 金原 厚
- 56 早川寿美 岸本 誠 竹石敬之 細田 寛
- 56 谷口秀治 平山 元 坂井邦夫 高橋宏幸
- 57 伊藤久幸 田鍋文啓
- 58 庄野俊夫 井上勇人 染谷孝幸 上杉信久
- 58 田淵浩史 旗栄一郎 竹下喜六 大井洋隆
- 59 藤井孝信 阿部弘行

- 60 笠原康司 高橋守種 横山 浩 藤原誠之
- 61 沢井清隆
- 61 大岡史直 佐藤昭一 山田彰彦 清宗一男
- 62 石川 順 吉田耕一郎
- 62 柴原公博 折田浩介
- 63 新谷守夫 最賀智正 上杉 佐 高山和則
- 平1 武市広治 青山貴志 中島宏誌
- 2 東樹秀明 白寄誠爾 小島敏正 木村達彦
- 2 昆野 敦 田中周作 渡辺和正 山田 昇
- 3 篠崎 享史
- 3 戸田雅道 多田比呂哉 柳内 崇 小田真義
- 4 増田哲也 足立充生
- 5 保泉 敦 片岡 聡 深澤伯亮 金子 誠
- 6 相見典祐 後藤 孝 二塚圭介
- 7 太田 治 中川孝博 千葉泰久 小俣光司
- 8 宮本匡彦
- 8 山崎雄一郎
- 9 久々湊仁彦 神藤浩史 阿部 宏
- 10 岡 利之 吉崎太二 里和勇人 大熊隆史
- 11 村木祐介
- 11 高田健太郎 大野潤三
- 12 真田康志
- 14 戸田 淳 豊住浩史
- 15 宇賀神直 生島史浩 四家健司 真鍋隆志
- 17 嶋津 亮
- 19 五味晃一 高橋泰洋 神山直樹 鍋木悠生
- 20 阿部研人
- 20 佐藤智哉 高橋真也 柝内佑樹 藤井 学
- 21 田村浩紀 永田佳彬 平岩 佳祐 柏原 啓大
- 22 原田 秀太
- 23 石田 雅之
- 24 山崎絢史郎

- 40 川上浩子 菅原弘子
- 42 杉澤小百合
- 43 林田千史 片山康子 齊藤弘子 轟 桃子
- 45 木本美代子 古庄篤子 長濱町子
- 46 倉科鈴恵
- 46 小笠 睦美
- 47 伊藤美枝子
- 52 吉川裕子
- 53 吉原典子 山下実果 小泉恵子
- 54 村田由子 堤千賀子 山田優子 戸松まさみ
- 55 黒坂美也子 山下節子 福嶋由起 ダン千里
- 57 坂井裕美
- 59 池田由紀子 後藤悦子 稲田菜穂子
- 60 永田良子 藤原亜美 服部敦子
- 62 山森涼子 増村真理子
- 平3 島田千代
- 5 西村恵美 吉川かおり
- 6 加藤明見
- 7 山崎江津子
- 9 阿部玲子
- 10 吉田 涼
- 11 畠中暁子 金谷美幸
- 12 真田明日香
- 13 太田佳世子 井口郁子
- 16 中條奈保子 寺岡佑希子 吉井悠子
- 17 佐々木ひとみ
- 18 根岸芳恵 磯崎美希 久木田安奈
- 19 福田恭子 吉村珠美
- 20 松本奈穂子
- 21 塚田晶子
- 22 大森有美子 北沢佳奈 滝口菜々子
- 24 手塚 綯 浅野亜由美 高津香和奈 国嶋ひとみ



## 創部100周年記念事業募金にご協力頂き有り難うございました。 平成24年11月現在

卒年 OB 氏名 (敬称略)

卒年 OB 氏名 (敬称略)

卒年 OG 氏名 (敬称略)

- 伊藤 謙哉 栗原 謙二 日向野 幹也 豊 豊 鈴木 徹雄 武藤 憲二 S36 八木下 紗絵子
- 西村 博文 舟田 正之 湯川 宣雄 S49 今井 広幸 中島 幸彦 立野 公一 S38 松平 紀代
- S18 岡野 利壽 原田 博 橋本 幸雄 S50 梅田 憲司 井畑 清 S40 川上 浩子
- S25 山本 実 原田 博 飯塚 繁 S51 鈴木 一広 S41 松田 弓子
- S26 平野 謙哉 迫 哲夫 S52 鈴木 宏 S43 林田 千史 片山 康子 吉川 加代子
- S27 岸本 駿二 橋本 幸信 一条 正志 S53 山下 哲夫 鷺田 典之 S44 石谷 こずゑ 長濱 町子 倉科 鈴恵
- S27 阿部 正夫 橋本 幸信 一条 正志 S54 原田 豊 加倉井 理 鈴木 康正 S45 飯塚 圭子 龍山 陽子
- S30 平澤 秀吉 森 恵 向井 和夫 S55 渡辺 薫 角野 俊平 S50 吉川 裕子
- S31 小野 眞義 森 恵 向井 和夫 S56 早川 寿美 岸本 誠 竹石 敬之 S52 山下 実果 小泉 恵子
- S32 堀井 章男 辻本 正司 永山 勝三 S57 田鍋 文啓 坂井 邦夫 平山 元 S53 戸松 まさみ 戸松 まさみ
- S32 笠原 伸介 川上 岳 高本 佳一 S58 井上 勇人 庄野 俊夫 旗 栄一郎 S54 山下 節子 黒坂 美也子
- S33 藤林 勇雄 井田 悦夫 井上 隆二 S59 阿部 弘行 藤井 孝信 上杉 信久 S55 坂井 裕美 榊澤 恵美子
- S34 小田原 正直 井田 悦夫 井上 隆二 S60 高橋 守種 藤原 誠之 山田 彰彦 S57 池田 由紀子
- 小笠原 潤彦 瓦林 聖児 寺井 政勝 S61 大岡 史直 佐藤 昭一 H3 島田 千代 西村 恵美
- 副島 光彦 飯郷 七朗 S62 柴原 公博 折田 浩介 H5 西村 恵美
- S35 河内 進 石井 達二 H6 加藤 明見
- S36 山中 博司 廣瀬 武二 H8 鈴木 麻衣
- S37 小西 一三 合瀬 武久 近藤 紘二 H9 阿部 玲子
- S38 下村 直史 倉光 純 西宇 昭男 橋本 宏 高橋 道男 伊藤 正信 H12 塩沢 ちえり
- S39 唐澤 靖治 石黒 潔 井上 詔夫 町田 昭雄 H16 石原 悠子
- S40 広瀬 省蔵 井上 詔夫 町田 昭雄
- S41 平井 克忠 大田 洋一
- S42 濱野 公哉 出口 誠之 豊田 資朗 倉光 哲 大石 正光
- S43 佐藤 俊彦 澤松 忠幸 富田 次郎 宇野 治 朝倉 伸行
- S44 占野 靖宗
- S45 上野 城太郎
- S46 日高 啓吾
- S47 中矢 真人
- S48 内原 康雄 清水 春海

平成23年11月までの募金額は 7,726,692円 となりました。  
4年後の2016年に創部100周年を迎えます。募金目標額は1,000万円です。今後とも募金事業にご協力下さい。  
100周年記念事業募金の口座案内 みずほ銀行 池袋西口支店 (普通) 1102894 立教テニス部100周年

### 訃報

若杉正明先輩 (昭和四十三年卒)

平成二十三年十二月六日

天野 胖先輩 (昭和十九年卒)

平成二十三年六月三日

湯川 宣雄先生

平成二十四年十月六日

